

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム蒼月
所在地	愛媛県西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 6月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2Fフロアは認知の進んでいる利用者が多いため、一番に利用者との関わりを大切にしている。声かけを多くし、利用者の思いを代弁できるよう努力している。また、利用者の健康管理にも十分気をつけ、安心して過ごせるよう努めている。おやつは市販の物は少なく、手作りで提供し利用者に定評である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園地帯に位置する開設8年目の事業所である。毎年行われている事業所の納涼祭は、地域住民をはじめ、利用者のご家族など約300人の参加があり、地域で開催されるにぎやかなイベントのひとつとなっている。利用者一人ひとりが安心して穏やかに過ごせるように思いや希望を尊重しており、日々の声かけや対応に気を配りながら職員全員で支援している。わらじ編みや餅つきなど利用者の得意としていたことに注目し、行事の時などに活躍してもらうことで、利用者の意欲がわき、生活の中でも楽しみを見つけられるように取り組んでいる。職員は法人内の事業所間での異動はあるが、職員一人ひとりが目標設定を行い、その実現に向けて管理者とともに明るく楽しいサービスの提供を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム蒼月

(ユニット名) 第1ユニット

記入者(管理者)

氏名 ホーム長 上野敬子

評価完了日 平成25年 5 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念をもとに事業所内各ユニット毎で理念を作り、廊下掲示場所に掲示し、共有出来ている。理念に基づくケアが実践できるように努めている。 又、個人個人の年間目標も掲げている。	
			(外部評価) 法人の運営理念のもとに、各ユニット毎にケア理念を作成している。職員一人ひとりが理念を実践するための具体的な目標を立て、日々の業務に取り組んでいる。職員はカンファレンスなどを利用して、利用者との関わり方や地域密着型サービスの意義について振り返り確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で行なわれる行事や蒼月の納涼祭には地域の方との交流を持つよう努力している。 又、近隣の方の訪問や小学生等の訪問もある。	
			(外部評価) 地域行事への参加や事業所の納涼祭に地域住民に参加を呼びかけ、協力を得るなど交流できるように努めている。近くの保育園や小学校からの園児や児童の訪問があり、交流をしている。また、日常的に散歩や外出の際には、地域住民と挨拶を交わしたり、積極的に会話したりしており、近隣の住民から野菜を分けてもらうなどの関係づくりをしている。来年早々に地域での介護教室を計画しており、地域に貢献できる事業所になっていけるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所内への訪問や催し物等、地域の方にはより多く参加して頂き、認知症に対しての理解や接し方等を一緒に考えていきたい。認知症についての講習会を地域の方に向け計画していたが日程が取れなくて実施出来なかったため今後実施出来るように努めたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 意見等を聞き、実践出来る事などは、記録文書にし、職員全員が閲覧出来るようにしている。 又、利用者の考えや思いを考慮し、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には多くの参加が得られるよう、事業所の行事や避難訓練と一緒に工夫をしており、事業所での利用者の暮らしぶりや雰囲気も見てもらう機会としている。内容が事業所の現状報告に終わることなく、参加者と事業所の課題について話し合ったり、意見交換を行っている。利用者のサービス向上のため、貴重な意見が出され、有意義な会議となっている。</p>	<p>会議では、活発に意見交換などが行われているが、参加者が固定しており、多方面からの参加が得られるよう呼びかけをすることが望まれる。会議には、職員も交替で参加できるよう勤務時間などを工夫して、地域密着型サービスの理解やサービスの向上に繋げていくことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 担当者とは気軽に相談出来るよう、日頃から連絡を取り、事業所の実情やサービスなど取組みを伝え、協力して頂けるような関係を保つようにしている。 行事等にも声かけし、協力して頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子や取組みを報告、意見交換などをして、協力関係を築いている。また、2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の声を聞き、相談や交流をしている。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 当事業所内では、現在拘束者はいない。職員も拘束をしないことを理解している。 職員研修で身体拘束について講師を招き、理解を深めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、職員間で話し合ったり、職場内研修をして理解を深めている。管理者と職員は、利用者を言葉で拘束しないことや落ち着きのある生活が送れるよう考えて、ケアの内容を振り返りながら、利用者の気持ちに寄り添うケアを実践している。</p>	<p></p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者に対しての虐待は、職員全体で話し合い、言葉使いなども気をつけて防止に努めている。 利用者の状態を職員全体で共有出来るようにケアカンファレンスを行い、又、介護記録や業務日誌等に記録し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている利用者がおられ、学ぶ機会もあり、関係者と話し合い活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約事前に十分な説明を行い、入居されてからも分からない事や要望、疑問点等を聞き、その都度解決出来るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアカンファレンスや家族会等で、要望を話し合い、職員全体で把握し、改善すべき点などを考慮し、ケアに努めている。 又、事業所玄関に意見箱を設置し、誰でも意見や要望を表せる機会を設け、意見に対し、真摯に向き合い対処するよう努めている。 (外部評価) 月1回、事業所便りに利用者の様子がわかる写真と担当職員の手紙を添えて家族に送付している。家族の訪問が多くあり、訪問時や家族会で意見や要望を聞くように努めている。家族会に出席できなかった家族には、後日面談などを行い意見や要望を聞く工夫をしている。出された意見や苦情は前向きに受け止めており、職員で話し合い改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスで問題点や意見等を出しまとめ、 管理者会議で提案していけるようになっている。	
			(外部評価) 管理者は現場にすることが多いため、日頃から職員は 意見や提案をしやすい環境にある。管理者は職員との 面談や事業所外でも職員と話をする機会を設けてお り、目標を持って生き生きと働くことができるような 工夫をしている。職員から出された意見は、法人内の 管理者会議に提案して話し合い、反映できるよう努め ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 管理者が勤務状況など職員全体を把握し、負担軽減に 努めてもらっている。 又、資格取得等により、給与面でも考慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 法人全体での研修や、各事業所内での勉強会も行って おり、南予地区研修等にも積極的に参加を促し、行っ ている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議等参加し、同業者や職員とも交流する機 会を作っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 表情の変化や会話の中で気持ちや体調を考慮し、接す ることに努めている。 又、本人が安心して暮らせるように何にでも真剣に耳 を傾け、信頼関係を築けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に家族の思いや要望等を聞き出し、家族会や面会時に不安な事や困っていることなどに耳を傾けて、信頼関係を築き、発言してもらえるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 一番必要としている事をケアプランに取り入れ話し合い、同意を得て実施している。 又、利用しながら他のサービスも必要となれば家族と相談し、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中でより多くふれあい、共に楽しめるようにしている。 他の利用者とも良き関わりを保てるよう職員が仲立ちし、暮して行けるよう接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や催し物、納涼祭等で一緒に楽しんでもらえる機会を作っている。 又、利用者の生活の状況、身体の状態等を毎月家族に手紙でお知らせしたり、面会時に近況等をお伝えし、関係を築いている。 面会や外泊も自由に出来るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族から聞き取り、利用者の馴染みの人達や馴染みの場所等、希望に応じ職員が支援している。 手紙や電話でやり取りが出来、関係が続くよう働きかけも行っている。 (外部評価) 入居前に自宅訪問をして、利用者の生活習慣やこれまでの暮らし、知人など馴染みの関係を把握している。事業所として馴染みの関係が継続できるよう支援している。事業所で利用者同士が良好な関係が築けるよう職員が配慮しており、馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入り、一緒に出来る事や楽しんで頂ける事、良好な関わり合いや支え合えるができるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 転居先への情報提供や家族や本人からの不安の訴えなどの軽減に努め、常に連絡が取れるようにし、相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや訴えを引き出しやすいように落ち着いた所で聞くようにしている。 言葉の中で表情の変化や動作等からも思いが感じ取れるように努めている。	
			(外部評価) 職員は日々のケアの中で、利用者の思いや希望を落ち着いた場所で聞くように努め、支援に繋げている。利用者から「お墓参りに行きたい」という希望が多く、家族の協力などを得て支援している。外出が困難でお墓参りができない利用者には、運営推進会議で話し合うなど思いを汲み取り、事業所内に仮設の仏壇を設置し拜めるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前の生活状況や暮らし方等の把握に努め、知人等からも情報を集め、これまでの暮らしの把握をするように努めている。 声かけにより、生活歴、環境などを知る事もできている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日中と夜間の状況を申し送り等で把握し、その人らしさを引き出し、一緒に行えるよう努めている。 又、介護記録や経過観察記録等により、スタッフ全員が情報を共有できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間内のみでなく、月一回の会議でも実施状況やあらたな問題点など話し合っている。 家族にも連絡を取り出来るだけ同席して頂き、本人、家族からの訴え、要望等はその都度対応して行くよう努めている。 (外部評価) 職員は介護計画の課題や目標を意識して日々のケアに取り組んでおり、記録をするなど職員間で情報を共有している。担当者会議では利用者や家族の意見を中心に話し合い、利用者主体の介護計画になるよう作成している。月1回の話し合いを行い、現状にあった介護計画になっているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践、気づき等、介護記録や業務日誌等に記入し、スタッフ全員が情報を共有している。 又、気付いた事等、次の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要な事などサービス内で支えきれない部分は関係者と話し合い、協力しながら本人がより安心した生活が送れるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの公民館の活用や買い物に出かけていくことで地域の方々にも支えて頂きながら、より良く楽しい生活が出来るよう支援している。 ホーム周辺の田畑の作物の成長をみたり、散歩に行き、草花を摘んだりして自然を感じて頂くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望する医療機関で治療ができるように 支援もしている。 又、当ホームの係りつけ医による医療が行える事な ど、適切に説明を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を、職員が同行して 受診することができる。利用者の受診内容や薬につい ては、家族に報告し、職員全員で把握して支援してい る。月2回の協力医の往診や週1回の訪問看護で利用 者の健康管理を行い、緊急時には適切な医療を受けら れる体制づくりができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の状態を常時確認し、変化があった場合は医療 連携に電話連絡し、状態を細かく報告し相談してい る。 又、週一回の医療連携看護師の訪問時にも情報交換は 密に行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関から月二回の往診や週一回の看護師訪問 で利用者の一般状態は把握されている。 他の医療機関への入院でも連絡を取り合いながら情報 交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所前に重度化や終末期についての指針を掲示し、説 明を行い、方針は共有出来ている。 又、状況に応じてその都度、医療機関、家族、共に相 談しながら、本人にとって一番良い方法を検討してい る。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族に看取りの指針を説明してお り、意向を確認している。利用者の状態が変化した場 合など医療関係者を交えて家族と話し合いを重ねてお り、方針の統一を図り、安心して納得できる終末期が 迎えられるように事業所全体で支援している。	事業所として看取りは行っているが、勤務年数の短い 職員や看取り経験がない職員もおり、終末期ケアの研 修を行い、職員の不安を取り除くとともに、実際の場 面で利用者や家族に不安を与えないように支援でき るよう、知識向上と職員全員の意識の統一をしていくこ とを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員、医療連携体制を周知している。 又、消防署職員の協力により、救急講習を受けるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回消防署立会いで全職員が非難訓練を行っている。 又、地域の方々にも参加して頂き、協力体制を築いている。 (外部評価) 年2回消防署指導のもと、避難訓練を地域住民と一緒に実施している。訓練では、具体的な避難方法や課題などを話し合っている。災害マニュアルが完備されており、備蓄の量を増やしたり、事業所を災害時の避難場所として提供することを地域住民に伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重し、誇りや思いなどを壊すことなく過ごして頂くよう、言葉かけや対応を心掛けている。 排泄などは本人の耳元で声をかけ、入浴も一対一で行うなどプライバシーに配慮している。 (外部評価) 入浴介助や排泄介助をはじめ、日常のあらゆる場面で利用者の誇りや尊厳を傷つけないよう配慮しながら、声かけや対応をしている。また、職員同士で確認しあうなど振り返りや話し合いをしている。利用者一人ひとりの人格や気持ちを尊重した対応ができるように事業所全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に関わりを多く持つことで、思いをよりよく知ることが出来るので出来る限り、声かけや話し相手になれるように努めている。 又、出来る限り本人の希望した時、すぐに対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 特に時間は決めず、利用者それぞれの生活ペースを崩すことなく暮らして頂けるよう支援している。 希望に添えるよう待つことも大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝、洗顔、整髪等はきちんと行い、衣類の汚れがあれば着替えて頂くように支援している。 又、本人の希望に応じ散髪の援助や更衣する時等は、本人の好みを聞き、選べるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る事を手伝って頂き、一緒に楽しめるようにしたり、時季の食材の事を話したりして食べる楽しみとなるように支援している。 共にテーブルを囲み、声かけ、見守りながら楽しい雰囲気ですべて頂くよう支援している。	
			(外部評価) 利用者と職員が一緒にテーブルを囲んで、季節の食材のことや会話を楽しみながら食事をしている。また、利用者は準備や片づけなどできることを手伝っている。近所の方から畑で採れた野菜を頂いた時には、献立を利用者と一緒に考えるなど、食に対する意欲が高まるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂取量はきちんと記録に残し、すぐに把握できるようにし、ひとりひとりの状態にあわせ声かけを行い、栄養や水分が確保できるように支援している。 又、水分の摂取量が少ない方には声かけし、こまめに取って頂くよう手渡し等して確保して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に行うようにしている。又、拒否の強い方は無理強いをしていない。義歯は夜間は預っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレ、パット交換等を記録し、様子を見て声かけし、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。食後トイレ誘導し、座っていただくことで自然排便ができるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄を記録してパターンを把握しており、その日の状態や体調にも配慮して、気持ち良くトイレで排泄ができるように支援している。オムツやパットに頼りすぎないように、声かけやトイレ誘導をして排泄してもらい見直しなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分の補給や適度な運動、腹部マッサージを心掛け、定期的にトイレに座って頂くとか自然排便が行えるようにしている。 排便チェックも行っており、どうしても出ない時は医療機関に相談し、指示を仰いでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 特に時間は決めておらず、毎日希望時に入浴出来るようにしている。拒否のある方は時間をおいて再度勧めたりなど、こまめに声かけをしているが、それでも拒否がある時は無理強いはいしていない。	
			(外部評価) 毎日、利用者の希望する時間に入浴することができる工夫をしている。利用者の身体状況に応じてゆったりとした介助をしており、安心して入浴することができる。希望により同性での介助や2人での介助をしている。入浴の苦手な利用者には無理をせず、声かけや気分転換を図りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) フロアに畳の間を設け、いつでも横になることができるようにしている。自室で休まれる場合は室内温度などに注意し、快適に過ごして頂けるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療機関と相談しながら、服薬にも注意を払っている。一人一人手渡し、誤薬がないよう確認しながら服薬してもらっている。 新しく処方された薬については情報等をもらい、内容等の確認を全員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 特に身体に問題がないかぎり、制限は設けていない。いつでも好きな事が出来るよう援助し、毎日、生きる喜びを感じ、笑顔でいてもらえるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や体調の良い時等は外出や買い物、ドライブ等を行っている。 又、家族会で話し合いをもち、協力しながら出かけられるように努めている。 (外部評価) 日頃から利用者は、買い物やドライブなど希望に応じて外出する支援をしている。年間行事には季節に合わせて花見や紅葉狩り、足湯など外出支援を取り入れている。事業所は静かな田園に囲まれており、地域住民と挨拶を交わしながらの散歩は五感刺激も得られ、気分転換を図ることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理はホーム金庫で預り、買い物時、所持したり使えるよう支援している。 預り金は個々のこずかい帳にて管理し、毎月こずかい帳のコピーと領収書等の原本を家族に送付して確認してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望される時すぐにできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロア居室の掃除や換気は毎日行い、玄関やベランダ等に花を植えたりしている。 又、廊下、壁に写真を掲示したり、季節感を取り入れたものを作り飾って、見て楽しめるよう努めている。</p> <p>(外部評価) リビングの大きい窓から明るい光が入り、窓からはのどかな田園風景を眺めることができる。畳のスペースでは食事をすることができ、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろいでいる。キッチンからはリビングの利用者の様子を見渡すことができ、職員は見守りや会話をする事ができる。季節の花が飾られ、季節を感じる事ができ、心和む空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者は畳のコーナーで会話やテレビ観賞されたり、利用者間で歌を楽しんだりされている。 居場所を確認、見守りしながら思い思いに過ごせるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室で使用出来るものは制限なく持参して頂くよう声かけをして、本人の使い慣れたもの、好みのものを使って頂くようにしている。 本人や家族の希望でテレビも設置している方もいる。 環境整備にも配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドと洗面台、クローゼット、タンスが備え付けられている。利用者は、仏壇や家庭で使用していた思い出の家具などを自由に持ち込むことができ、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室内でベッドから立ち上がりやすいようにつかまるものを配置したり、音の出る物で転倒しやすい方の動きが把握できるようにしている。 自分の持っている力が制限なく出来るよう、すぐに手を出さないように心掛けている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400267
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 蒼月
所在地	西予市宇和町岡山545番地
自己評価作成日	平成 25 年 5 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 6月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族、職員間の信頼関係を大切にしている。家族の一員として、良いことも悪いことも、なんでも言える関係を作り、会話においても、接遇を頭におきながら、方言を使用し距離感を縮めている。最近では利用者以外のことについても相談を受けたり、こちらからも相談したり、なごやかな関係が持てていると思う。次に、利用者と地域のみなさんとの関わりである。散歩中に地域のみなさんに声をかけたり、かけられたり、地域住民の一員として認めて下さり、また、「認知症」にも理解をしめて下さるようになり、地域のみなさんに支えて頂きながら運営できている。施設周りは田園風景が見事で、身近に四季を感じる事ができ自然に恵まれた環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園地帯に位置する開設8年目の事業所である。毎年行われている事業所の納涼祭は、地域住民をはじめ、利用者のご家族など約300人の参加があり、地域で開催されるにぎやかなイベントのひとつとなっている。利用者一人ひとりが安心して穏やかに過ごせるように思いや希望を尊重しており、日々の声かけや対応に気を配りながら職員全員で支援している。わらじ編みや餅つきなど利用者の得意としていたことに注目し、行事の時などに活躍してもらうことで、利用者の意欲がわき、生活の中でも楽しみを見つけられるように取り組んでいる。職員は法人内の事業所間での異動はあるが、職員一人ひとりが目標設定を行い、その実現に向けて管理者とともに明るく楽しいサービスの提供を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム蒼月

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)
氏名 越智保子

評価完了日 平成25年5月24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念、フロア理念、また個人目標を立て、フロア内に掲示し、職員全員で共有し実践に繋げるよう努力している。年度末には各理念を職員全体で反省し、個人目標においては、管理者と面談し、次年度に繋げるよう、努力している。	
			(外部評価) 法人の運営理念のもとに、各ユニット毎にケア理念を作成している。職員一人ひとりが理念を実践するための具体的な目標を立て、日々の業務に取り組んでいる。職員はカンファレンスなどを利用して、利用者との関わり方や地域密着型サービスの意義について振り返り確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事、地域の掃除等に参加しており、また、保育所、小学校の運動会、発表会にも参加させて頂いたり、施設内の行事にも参加して頂き、日常的に交流できるよう努めている。	
			(外部評価) 地域行事への参加や事業所の納涼祭に地域住民に参加を呼びかけ、協力を得るなど交流できるように努めている。近くの保育園や小学校からの園児や児童の訪問があり、交流をしている。また、日常的に散歩や外出の際には、地域住民と挨拶を交わしたり、積極的に会話したりしており、近隣の住民から野菜を分けてもらうなどの関係づくりをしている。来年早々に地域での介護教室を計画しており、地域に貢献できる事業所になっていけるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民に向けての「介護教室」等の案はできているが、実践したのは運営推進会議の構成員のみで、地域の人々に対しての「勉強会」は実践できていない。少しでも早く実践し、地域に貢献したいと思う。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議において、利用者のサービスについて話し合っている。昨年はお盆に墓参りがしたいと訴えられる利用者が多く体調面、お墓の場所等に問題があり、実行できなかったが、構成員の意見により、フロア内に仮設の仏壇を作り、利用者が手を合わせ、先祖の供養ができたことと喜ばれ、利用者、家族から評価が得られた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には多くの参加が得られるよう、事業所の行事や避難訓練と一緒に工夫をしており、事業所での利用者の暮らしぶりや雰囲気も見てもらう機会としている。内容が事業所の現状報告に終わることなく、参加者と事業所の課題について話し合ったり、意見交換を行っている。利用者のサービス向上のため、貴重な意見が出され、有意義な会議となっている。</p>	<p>会議では、活発に意見交換などが行われているが、参加者が固定しており、多方面からの参加が得られるよう呼びかけをすることが望まれる。会議には、職員も交替で参加できるよう勤務時間などを工夫して、地域密着型サービスの理解やサービスの向上に繋げていくことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーであり、日頃から、悩み相談が気軽にできる関係ができていると思う。また、2ヶ月に1回の介護相談の訪問により、利用者の声を聞いて頂いたり、雰囲気を見て頂き、相談員の意見を検討し、日頃のケアに活かしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子や取組みを報告、意見交換などをして、協力関係を築いている。また、2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の声を聞き、相談や交流をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に関する勉強会を専門講師を呼んで、法人全体で実施している。職員は拘束しないケアを理解しており、昼間は戸口の開放、夜間のみ玄関を施錠している。また、居室においても、戸口に鍵はなく自由に入力できるような拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、職員間で話し合ったり、職場内研修をして理解を深めている。管理者と職員は、利用者を言葉で拘束しないことや落ち着きのある生活が送れるよう考えて、ケアの内容を振り返りながら、利用者の気持ちに寄り添うケアを実践している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 業務カンファレンス等を利用したり、施設外の勉強会に参加したり学ぶ機会を持っている。また、入浴時の身体観察を徹底し異変を早期発見できるよう注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人全体で学ぶ機会を持っており、また、成年後見制度を利用している利用者もいるため、概ね理解していると思うが、新人職員に対してはもう少し学ぶ機会が必要だと思っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は利用者、家族の意向を聞きながら、十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約を交わしている。報酬加算の必要性や料金改定の理由についてもその都度説明し、書面にて同意を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、職員との信頼関係を大切にし、何でも言いやすい関係ができるよう努力をしている。また、家族会を通し、意見、要望を聞く機会を持ち、運営推進会議の構成員と協議しながら運営できるよう努力している。 (外部評価) 月1回、事業所便りに利用者の様子がわかる写真と担当職員の手紙を添えて家族に送付している。家族の訪問が多くあり、訪問時や家族会で意見や要望を聞くように努めている。家族会に出席できなかった家族には、後日面談などを行い意見や要望を聞く工夫をしている。出された意見や苦情は前向きに受け止めており、職員で話し合い改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンス等を利用し、職員が自由に発言できる機会を設けている。月1回、本部で行われる管理者会議において、職員の意見や提案を報告し、その都度協議している。	
			(外部評価) 管理者は現場にすることが多いため、日頃から職員は意見や提案をしやすい環境にある。管理者は職員との面談や事業所外でも職員と話をする機会を設けており、目標を持って生き活きと働くことができるような工夫をしている。職員から出された意見は、法人内の管理者会議に提案して話し合い、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務年数、経験年数に関係なく職員一人ひとりの努力や実績を把握し向上心を持って働ける環境ではあるが、給与に関しては満足していない職員が多い。また、休憩時間も利用者と一緒に食事だけで、決められた時間を休憩できていないのが現状である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者とは距離がなく一職員でも直接意見交換ができる関係ができており、法人内外の研修を受ける機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会に加入しており、研修時に同業者と交流する機会があり、また、ボランティア受け入れの会議に出席するなどネットワークづくりに努め、質向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に施設見学、事前調査において本人の不安、またこれからどういう風な生活を送りたいのか、本人の気持ちに耳を傾け、困っていること、やりたい事を聞きながら、関係性を築く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が困っていること、不安なことに耳を傾けながら、本人と家族の考えに相違がないか、本人はもちろん家族の立場のなつて耳を傾ける努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」まず必要としていることは何か、本人を観察し、必要としている支援を見極め、本人が納得し安心して過ごせる関わりを持つよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者を「家族」と思い、同じ屋根の下で暮らす者として、教えたり、教えられたり、気軽に相談できるような、また、本人を知ろうとする努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「介護している」という気持ちを取り去り、また、家族も「介護されている」という気持ちを持つのではなく、職員と一緒に本人を支えていける関係を日頃から持てるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人、家族からこれまでの馴染みの人や馴染みの場所の情報収集に努め、行きつけの美容院に行ったり、病院を受診したり、その関係を断ち切らないよう、また、本人の希望に沿ったサービスができるよう努力している。 (外部評価) 入居前に自宅訪問をして、利用者の生活習慣やこれまでの暮らし、知人など馴染みの関係を把握している。事業所として馴染みの関係が継続できるよう支援している。事業所で利用者同士が良好な関係が築けるよう職員が配慮しており、馴染みの関係ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの特性を把握し、その上で利用者同士が関わり、支え合えるよう、日常生活に積極的な関わり、利用者が孤立せず、楽しく生活できるよう努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じて、本人の情報を提供し、本人、家族の不安を取り除くよう、経過を見守っている。また、長期入院が理由で退去になった利用者に対しては、職員が公休を利用し、見舞いに行ったり、入居されていた時と同様、関わりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者が、その人らしく生活できるよう、ケアカンファレンス等で意見を出し合い、「できない」とあきらめるのではなく、どうしたら、できるようになるか検討したり、工夫したり、本人の思いや意向が実現できるよう取り組む努力をしている。 (外部評価) 職員は日々のケアの中で、利用者の思いや希望を落着いた場所で聞くように努め、支援に繋げている。利用者から「お墓参りに行きたい」という希望が多く、家族の協力などを得て支援している。外出が困難なお墓参りができない利用者には、運営推進会議で話し合うなど思いを汲み取り、事業所内に仮設の仏壇を設置し拜めるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員が本人、家族となんでも言い合える信頼関係をつくり、本人の生活歴を共有し、ホームでの生活においても、本人の持てる力を把握し、今までの生活が少しでも多く継続できるよう、努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員全員が本人の生活の流れを把握し、気づき、問題点があれば、言動、表情に気をつけながら、本人と談話する時間を多く持てるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画は職員の考えで作成するのではなく、本人、家族の意向も考慮しながら、また、サービス担当者会議にはできるだけ参加して頂き、参加できない場合は、事前に、電話、面会時に要望を聞き、本人、家族、職員で介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 職員は介護計画の課題や目標を意識して日々のケアに取り組んでおり、記録をするなど職員間で情報を共有している。担当者会議では利用者や家族の意見を中心に話し合い、利用者主体の介護計画になるよう作成している。月1回の話し合いを行い、現状にあった介護計画になっているか確認している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアプランに基づいて記録しており、利用者の言葉や表情も大切に客観的に記録できるよう努力している。また、記録が次のプランにつなげられるよう、気づきや</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 既存のサービスに捉われず、本人や家族の状況が変われば柔軟な支援やサービスができるよう多機能化の取り組みに努力している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者全員が美容院の出張サービスを利用しており、馴染みの関係になっている。また、出張マッサージを受けられている利用者も数名おり、近くの図書館や郵便局に行かれたり、地域の人の力を借りながら支援できていると思う。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の要望により入所前のかかり付けの医師による精神科、内科、眼科、歯科、耳鼻科の医療を受けている。医療連携の病院においても本人、家族の同意を頂き、日常の健康管理に努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を、職員が同行して受診することができる。利用者の受診内容や薬については、家族に報告し、職員全員で把握して支援している。月2回の協力医の往診や週1回の訪問看護で利用者の健康管理を行い、緊急時には適切な医療が受けられる体制づくりができています。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日常のケアの中で、利用者の健康管理や状態に変化があれば、職場内の看護師に報告し、また、1週間に1回、医療担当看護師の訪問により、報告、相談ができ、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際、本人のストレスの軽減や、認知の進行を防ぐためにも、お見舞いに行ったり、入院先の医療機関者に情報の提供は行っているが、本人、家族を含めた、医療関係者とのケアについての話し合いまでは持っていないのが現状である。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時、本人、家族に将来迎える終末期に対して、どういう風な思いがあるのか、ホーム内での生活、また、医療に対する希望を聞き、緊急対応希望書に記入して頂いている。、状態変化時には、家族、医療機関とも協議しながら、チームケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族に看取りの指針を説明しており、意向を確認している。利用者の状態が変化した場合など医療関係者を交えて家族と話し合いを重ねており、方針の統一を図り、安心して納得できる終末期が迎えられるように事業所全体で支援している。	事業所として看取りは行っているが、勤務年数の短い職員や看取り経験がない職員もおり、終末期ケアの研修を行い、職員の不安を取り除くとともに、実際の場面で利用者や家族に不安を与えないように支援できるよう、知識向上と職員全員の意識の統一をしていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防士による救命講習に参加し、実践力を身につけるよう努力している。また、緊急時のマニュアルも作成しており、医療体制においても周知できるよう、すぐ見えるところに掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に3回消防士による防火、防災訓練を行い、地域の方にも参加して頂き、ご理解を頂いている。緊急時の避難場所も地域の公民館とし、地域の消防団、区長にも緊急連絡網に名前を記載して頂くことに、同意を頂き、協力して頂いている。スプリンクラーは平成23年度に設置済み。 (外部評価) 年2回消防署指導のもと、避難訓練を地域住民と一緒に実施している。訓練では、具体的な避難方法や課題などを話し合っている。災害マニュアルが完備されており、備蓄の量を増やしたり、事業所を災害時の避難場所として提供することを地域住民に伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。また、業務カンファレンス、ケアカンファレンス等で話し合いの場を持ち、日常のケアから利用者に対して、人生の先輩として関わる努力をしているが、時に、排泄の声かけに配慮できていない時もあるので、改善していきたいと思う。 (外部評価) 入浴介助や排泄介助をはじめ、日常のあらゆる場面で利用者の誇りや尊厳を傷つけないよう配慮しながら、声かけや対応をしている。また、職員同士で確認しあうなど振り返りや話し合いをしている。利用者一人ひとりの人格や気持ちを尊重した対応ができるように事業所全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常のケアの中で、気づきや本人の言葉を大切にし、その人らしい希望や思いを引き出せるよう努力している。意思表示ができない利用者に対しては、表情、身体の反応を観察しながら、本人の希望が何なのか、馴染みの関係の中で把握できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本来持っている本人のペースを他利用者に合わせるのではなく一人ひとりのペースに合わせて努力をしている。また、職員の都合で一日のスケジュールを決めるのではなく、本人の自己決定を大切に支援していく努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望を大切にし、また、個性を大切にし個別に支援していく努力をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の「食の楽しみ」を大切にし、楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように支援している。また、食材切り、味見をして頂いたり、職員と一緒に食事の準備をしたり、後片付けをしている。献立も利用者の希望を取り入れ、旬の食在を大切にしている。	
			(外部評価) 利用者と職員が一緒にテーブルを囲んで、季節の食材のことや会話をしながら食事をしている。また、利用者は準備や片づけなどできることを手伝っている。近所の方から畑で採れた野菜を頂いた時には、献立を利用者と一緒に考えるなど、食に対する意欲が高まるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの栄養、水分摂取量を記録に残し、職員全員が把握できるよう工夫している。また、水分補給に拒否のある利用者に対しては、プランに導入し、飲み物の種類を変えたり、工夫しながら水分確保に努めている。1ヶ月に1回、体重測定を行い健康管理に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを法人全体の研修に取り入れたり、職員全員が口腔ケアの必要性を理解している。一人ひとりの力量に合わせて、できない利用者にはガーゼで拭き取る等、清潔に気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 職員全員が、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、おむつに頼るのではなく、本人の気持ちを優先し、施設内は布パンツ、外出時は紙パンツを使用するなど、不快な思いをされないよう支援している。また、失敗された場合もさりげなく処理し、自尊心を傷つけないよう気をつけている。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄を記録してパターンを把握しており、その日の状態や体調にも配慮して、気持ち良くトイレで排泄ができるように支援している。オムツやパットに頼りすぎないように、声かけやトイレ誘導をして排泄してもらい見直しなどの工夫をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 薬に頼るのではなく、水分量の確保、繊維物の食材を献立に取り入れるよう気を付けている。また、適度な運動や腹部マッサージを行い、スムーズに排泄できるよう支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 一人ひとりの希望に沿って、入浴できていないのが現状である。利用者のほとんどが、夕食後から就寝前に希望されるが、夜勤者が一人のため個々に応じた入浴ができておらず、検討は行っているが改善策もみつからず、一番の課題である。</p> <p>(外部評価) 毎日、利用者の希望する時間に入浴することができる工夫をしている。利用者の身体状況に応じてゆったりとした介助をしており、安心して入浴することができる。希望により同性での介助や2人での介助をしている。入浴の苦手な利用者には無理をせず、声かけや気分転換を図りながら支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 居室、昼の間にて自由に横になって頂いたり、就寝時間も本人の生活習慣を大切にし、自由に就寝できるよう、支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が、薬について理解しており、薬に変更があった場合は職員全員が周知できるように、送りノートを活用している。また、誤薬がないよう薬の管理にも気を付けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの残った力を見極め、ホームでの役割を持って頂いたり、退屈しないよう、「できること、できないこと」を把握し、プランに導入している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物、散歩、病院に出かけることは支援できているが、特別な個人の希望の外出に限っては、職員だけでは対応できず、十分とは言えない。年間行事において、利用者の希望も考慮しながら企画する努力をしている。	
			(外部評価) 日頃から利用者は、買い物やドライブなど希望に応じて外出する支援をしている。年間行事には季節に合わせて花見や紅葉狩り、足湯など外出支援を取り入れている。事業所は静かな田園に囲まれており、地域住民と挨拶を交わしながらの散歩は五感刺激も得られ、気分転換を図ることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の「食の楽しみ」を大切にし、楽しい雰囲気です食事ができるように支援している。また、食材切り、味見をして頂いたり、職員と一緒に食事の準備をしたり、後片付けをしている。献立も利用者の希望を取り入れ、旬の食材を大切にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望により、電話、手紙等は自由にできるように支援している。また、家族から施設用件の電話が入った時も、なるべく本人の声を聞いて頂けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) いつも清潔に努め、明るさ、室温にも気を付け利用者が快適に過ごせるよう生活環境に気を付けている。また、フロア内に季節の花を飾ったり、壁面にも季節の掲示物を貼ったりして、季節感を味わって頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価) リビングの大きい窓から明るい光が入り、窓からはのどかな田園風景を眺めることができる。畳のスペースでは食事をすることができ、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろいでいる。キッチンからはリビングの利用者の様子を見渡すことができ、職員は見守りや会話をすることができる。季節の花が飾られ、季節を感じる事ができ、心和む空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの生活感を大切に、居室とフロア（畳の間）で思い思いに過ごせるよう支援している。また、フロア廊下にベンチを置くなど、プライベートな時間が持てるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は本人のプライベートルームとして、本人の希望を大切にしている。また、家族にも馴染の物を置いて頂けるよう声かけしたり、安心して快適に過ごせるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドと洗面台、クローゼット、タンスが備え付けられている。利用者は、仏壇や家庭で使用していた思い出の家具などを自由に持ち込むことができ、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 施設内は手すりを設置しており、段差をなくしている。自宅で水洗トイレの経験がない利用者に対しては、その都度説明し、水道の蛇口の使い方の分からない利用者にもその都度説明している。</p>	